

臓器病態学Ⅱ

Organ Pathology Ⅱ

単位数：5単位

○並河 徹 教授：病態病理学
丸山理留敬 教授：器官病理学
兒玉 達夫 准教授：眼科学
吉廻 毅 准教授：放射線部
石川 典由 准教授：病理部
荒木亜寿香 講師：器官病理学

1. 科目の教育方針

各種臓器には、それぞれに特有の疾患が存在する。本過程では、これを各論的に取り上げるとともに、病理学的解析の方法論について解説する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 病理学的診断法の考え方を理解する。
- 2) 臓器ごとに特有な疾患の病因論、最新の知見、治療法、予防法を理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 視覚系、特に網膜血管性病変の病態生理と発症メカニズムを概説できる。
- 2) 神経系分析の多方向性を説明できる。
- 3) 悪性腫瘍に関する形態学的診断の限界と問題点を説明でき、その解決となる方策について論ずることができる。
- 4) 現在一般化されている免疫組織化学的、分子生物学的診断方法を説明でき、適切な診断法を選択できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- ・Kumar, V et al. Pathologic Basis of Disease, 9th ed. Elsevier (Philadelphia), 2015.
- ・Shields, JA & Shields CL. Eyelid, Conjunctival, and Orbital Tumors. An Atlas and Textbook, 2nd ed. Lippincott Williams & Wilkins (Philadelphia), 2008.
- ・Shields, JA & Shields CL. Intraocular Tumors. An Atlas and Textbook, 2nd ed. Lippincott Williams & Wilkins (Philadelphia), 2008.
- ・Essential Practice of Neurosurgery (2nd Ed.), Eds: KALANGU K., 2009.

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	病理診断総論 1	並河 徹
2	病理診断総論 2	並河 徹
3	病理診断各論 1	丸山理留敬
4	病理診断各論 2	丸山理留敬
5	病理診断各論 3	丸山理留敬
6	遺伝子診断法概論	並河 徹
7	画像診断総論	吉廻 毅
8	画像診断各論 1	吉廻 毅
9	画像診断各論 2	吉廻 毅
10	眼瞼腫瘍の病理	兒玉 達夫
11	眼窩腫瘍の病理	兒玉 達夫
12	眼内腫瘍の病理	兒玉 達夫
13	神経病理学 I	荒木亜寿香
14	神経病理学 II	荒木亜寿香
15	神経病理学 III	荒木亜寿香